「グローカル・シチズンシップ・プログラム　本校にて始動！」

本校の教育目標の一つでもある「グローバルコミュニケーション力の育成」の一環として、新たなプログラムがこの夏、始動いたしました。その名も「グローカル・シチズンシップ・プログラム」！ “Think Globally, Act Locally”をモットーに、世界が抱える様々な課題について、「自分ごと」としてどう向き合うかを考えるプログラムです。

第 1 回目である 8 月 17 日には「スマホから考える世界・わたし・SDGs」と題し、スマホが手元に届くまでを紐解きながら、その工程に様々な課題が存在することをクイズやロールプレイを通して学び、その課題解決のために今、自分ができることを皆で考えました。

8 月 22 日には「日本の中の多文化　わたしの中の多文化」というテーマの下、ネパール出身のレヌカさんという女性が日本で感じた異文化を追体験しながら、多文化共生社会を目指していく上で必要なことをグループでディスカッションしました。

両日とも 13 名の参加者が、真剣に「自分ごと」として課題に向き合う姿が頼もしく、有意義な2日間となりました。

この「グローカル・シチズンシップ・プログラム」は、夏休みと春休みを活用して、今後全8回シリーズとして展開していく予定です。次回は「教育支援」を切り口に、来年の春休みに実施いたします。皆さんも一緒に、「グローバル＋ローカル＝グローカル」な活動に参加して、世界に広がる自分の引き出しを増やしてみませんか？

《参加生徒感想》

〇スマホを作る過程で、紛争や人権問題が発生していることに驚いた。どれも簡単に解決できる問題ではないとロールプレイを通じてより強く感じた。だからこそ、こういった問題をまず知ることが必要だ。知ることができれば、多くの人は自分にできることをしようと行動を起こすはずだ。

〇このプログラムに参加するまでは、「グローバル」とか「地球規模の問題」とか、大きな問題を自分が考えても意味ないと思っていた。でも、実際はそうではなかった。スマホの問題の背景を考え、いろいろなことが複雑に絡み合っていることに気づくと、高い値段だと思っていたものにも相当の理由があることに気づく。私たち消費者はつい安いものを求めるけど、それだけでは問題が野放しにされてしまうということが分かっただけでも、今回のワークショップに参加できて有意義だった。

〇私が当たり前だと思っていたことや、ネパールはこうだろうと思っていたことが全然違うということがたくさんあって、驚きました。まずは、自分に身近な文化から思い込みをなくすことで他のたくさんの文化を理解できるのかなと感じました。

〇互いに「違う」ということで距離を作るのではなく、面白さを感じられたらいいと感じました。そのような視点があれば多文化共生に繋がっていくのかなと思います。大切な視点を学べてよかったです。

〇来年、選挙権を得られるので、今回自分たちで考えて話し合ったり、感じたりしたようなことを公約にしている人が選挙に立候補しているといいなと思います。そんな人を選んで投票したいです。